

★インクルファンドで助成した団体を紹介します★

まちのほっとスペース ちっちゃいおうち (小平市)



階段を上がると、そこにはこじんまりしたロフトのようなスペース。隠れ家的な雰囲気もあり、とても落ち着く空間です。週2回のランチの日には、いつも10人ほどが集まり楽しいひとときを過ごしています。この日も2台の座卓に手作りのお惣菜がずらりと並び、のんびりおしゃべりしながら食事をいただきました。

NPO法人ACT小平らいふえいどが入居するビルのオーナーの息子さんが住まわれていた空き室を使わないかとお話があり、ぜひ居場所として活用させてもらいたいと申し出たところ、できることは関わりたいと自ら改修工事まで行ってくれたそうです。この場所がなければ、ほっとスペースづくりは実現しなかったと、縁がわワークの打木さんは言います。

食後はみんなで口腔リハビリにもなる「あえいおう体操」。高齢者の一人暮らしでは、人と話す機会がなく1日が終わってしまうことも。気軽に立ち寄り、お話ししたり体操したりできる場所があることで、心身の健康が維持できます。介護予防事業を行うサロンとして「こだまちサロン」(こだいらまちなかサロン助成事業：小平市社会福祉協議会が小平市から委託を受け行う事業)にも登録

し、助成金で冷蔵庫やエアコンを購入。1回1500円の運営費の補助もあるとのこと。インクルファンドでは、ウォシュレットやストーブ、座椅子などの購入費用を助成しました。

小平地域協議会では、古くからの組合員の智恵を新しい組合員や次世代につなげていく場、また、それぞれの能力を発揮する場として活用していくことを2017年度からの3カ年計画に盛り込んでいく予定です。

(インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子)



おしゃべりの内容は今晚のおかずから政治談議まで、なんでもあり。



「あえいおう体操」の講師はメンバーの床井さん。1サイクル終わる頃には美声に?!

まちのほっとスペースちっちゃいおうち
場所：小平市学園東町2-4-16
連絡先：chityaiouchi@gmail.com

サポーター募集中！あなたの1日10円で、つながり・支えあう豊かな地域社会をつくらう！

サポーターとは『地域ごとに必要な機能をつくり、市民が参加し利用するまちづくり型福祉』を推進し、豊かな地域社会づくりにつなげるために、インクルーシブ事業連合の運営および助成の財源を寄付で支える、個人または団体のことです。

＜会費＞ 個人3,600円/年 団体10,000円/年

※生活クラブ組合員の場合、登録制で300円/月を共同購入代金と一緒に引き落とすことができます。

★サポーターになるには、下記の登録申込書をファックスまたは郵送していただくか、

ホームページのお申し込みフォームからご登録ください。URL <http://inclusive-gr.com/>

郵送先：〒156-0051 世田谷区宮坂3-13-13 3F「生活クラブ・東京」内 インクルーシブ事業連合

ファックス：03-5426-5203 電話：03-5426-5207

お名前			
ご住所	〒		
電話番号		メールアドレス	
所属	・生活クラブ生協（組合員コード： ） ・助成を受けた団体 ・運動グループ（団体名： ） 会員・メンバー ・その他（ ）		
申し込み口数	個人（ ）□ ……1□ 3,600円/年 団体（ ）□ ……1□ 10,000円/年		

*ご記入いただいた個人情報は、インクルーシブ事業連合のサポーター登録およびお知らせの送付に限り使わせていただきます。

つながって実現！ 市民主体のまちづくり型福祉

インクルーシブ通信

2016年12月
vol.18



発行：生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合 発行責任者：土谷雅美 <http://inclusive-gr.com>

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-13-13 生活クラブ・東京内 TEL 03 (5426) 5207 FAX 03 (5426) 5203

発達障害の子どもにどう寄り添うか

インクルーシブ事業連合 子育て支援共育講座報告 (2016年10月1日)

講師：石川憲彦さん (林試の森クリニック院長・児童精神科医)

● 「じっとしている子が良い子」は 大人が創り出した「不自然のルール」

野生の哺乳類が生存するために最も必要なのは「身を守るために逃げる」能力。それはあらゆる生き物の自然のルールであり必要な情報として脳に組み込まれています。生き物として人間を捉えれば、多動は生き延びるために最も大事な能力ですが、学習する脳を備えている人間は10歳位で多動が落ち着くようになってきているのです。「じっとしている子が良い子」は大人が創り出した「不自然のルール」だから理解できなくて当然。その子のやり方・行動は生き物として人間の脳にプログラムされたとおりの行動であり、大人はそれを理解して対応すればいいのです。「困った子」と思う前に好循環をどう創り出すかを考えることが大切です。

機械産業の進展による大量生産の時代には、モノづくり、実物生産に強い人たちが求められ、モノづくり



講師の石川憲彦さん



ワークショップで意見交換

が苦手な人は排除されてきました。サービス産業、情報産業社会が主流となった今、コミュニケーション能力、空気を読む能力が求められ、それに対応できない人たちも、主流産業では「働けない人たち、扱い難い人たち」として広汎性発達障害と分類されるに至ったと石川さんはいいます。

● これって障がい？

しかし、コミュニケーションが苦手とされる人たちは、目に映ったものを映像として脳に記憶する視覚優位の脳を持っている人が多いといわれています。彼らの素晴らしい能力を活かしきれていない社会の側に課題があるのではないのでしょうか。家庭や教育・保育の現場で良い子、扱いやすい子、今の私たち大人にとって対応しやすい子を要求しすぎているのではと感じます。

「自然界のルールに従って行動している子どもたち」に対して産業構造の変化の中でそれを許容できなくなっている大人と社会が「この子もあの子も発達障害？」とレッテルを貼り、発達障害と呼ばれる子どもたちを増やしている構造を大きな社会の変化から捉えることができました。

ACT 稲城たすけあいワーカーズこんぺいとう

代表 中村美穂子

就労に困難を抱える人と「ともに働く」事業所指定寄付 ご協力をよろしくお願い致します

- 応援したい事業所を選び、1口500円から何口でも寄付できます。生活クラブの組合員は共同購入代金と一緒に引き落とすことができます。
 - 寄付はインクルーシブ事業連合を通じて各事業所に振り込まれます。
 - 寄付募集の締切は2017年2月28日です。
 - 問い合わせ：TEL：03-5426-5207 担当：平岡・稲宮
- メール：info@inclusive-gr.com ホームページ：[検索](#)→ともに働く事業所指定寄付

今回寄付を募集しているのはこの3団体！



【インクルーシブ事業連合構成団体】生活クラブ生協・東京/NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT)/社会福祉法人悠遊/東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合/東京・生活者ネットワーク/東京コミュニティパワーバンク/認定NPO法人市民シンクタンクひと・まち社/認定NPO法人まちぼっと/環境まちづくりNPOエコメッセ